

市民学コース 富士見の歴史 6000年の富士見の歴史を展望する

第1回 村の発展と「富士見」誕生

平成28年6月11日(土) 10時～12時 鶴瀬公民館 第3集会室

講師 水子貝塚資料館館長 加藤秀之氏

第39期 歴史講座は富士見市を取り上げ、古代から現在の「富士見市の民族・生活」の歴史を振り返ります。第一回の講師は水子貝塚資料館の加藤館長をお迎えしてのスタートになります。受講者は46名（スタッフ含む）、司会の加藤理事が挨拶と加藤講師を紹介し、講義が始まりました。



歴史は一番古い時代から遡って現代に学ぶのですが、今回は歴史教育ではしられる一番身近な自分誌になる現代から今回は講義をしていくことになります。富士見市の近代現代を話します。日本の近代は明治時代位から大正、昭和戦前になり、現代は戦後と言っていいと思います。



富士見の名前の誕生までを話すに当たって、自分自身で何があったのか、富士見市がどう変わってきたかを考えたい。明治では寺子屋から学校 3 村合併、鶴瀬、南畑、水谷を考え、明治 43 年荒川の洪水、大正新河岸川改修は昭和にかけて、東上鉄道、大正 12 年の関東大震

災、昭和は太平洋戦争など、俗に言う先の大戦がありました。水谷村が合併したり分裂したりがありました。昭和 31 年「富士見村」誕生などがあるのかなと思いつきましたが、全部は話しきれないので、知っていただきたいことを抜き出してお話しします。

今から考えますと、今年は富士見村誕生から 60 年、東日本大震災から 5 年の節目、去年は戦後 70 年、一作年は大正 3 年の東上鉄道（東上線の前身）開通から 100 年です。

明治21年調査

新村名	旧村名	面積	戸数	人口
鶴瀬村	鶴馬村	527.3	303	1,856
	勝瀬村	151.4	100	603
	計	678.8	403	2,459
南畑村	上南畑村	184.6	144	932
	下南畑村	275.2	209	1,276
	南畑新田	83.0	64	441
	東大久保村	142.8	124	722
	計	685.6	541	3,371
水谷村	水子村	386.8	281	1,613
	針ヶ谷村	45.2	34	230
	計	432.0	315	1,843
総計		1796.6	1,259	7,673

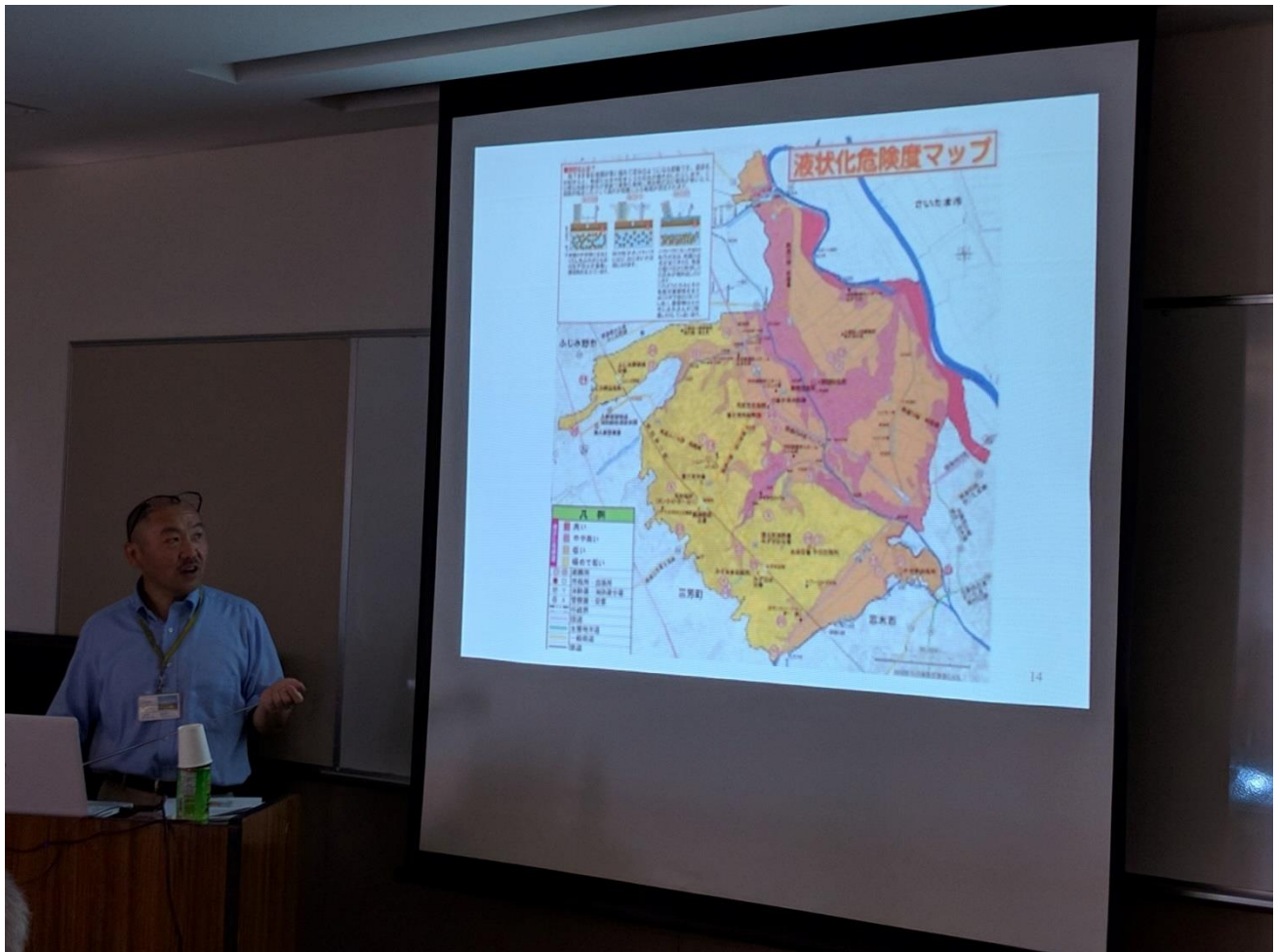
【明治21年調査】より

県の説明

- ・水子村と連合している宗岡村を1村で独立させる見込みのため、水子村は針ヶ谷村と併せなければ1村を作ることができない。
- ・新村名は、「水谷村」とする。
- ・役場の位置は、水子村に置く。

昭和 47 年に富士見市は市制が始まりましたが、その前は富士見村、その前は 3 つの村でした。その前は鶴瀬村（明治 22 年の合併）の前は鶴馬村と勝瀬村、南畑村は上南畑、下南畑、南畑新田、東大久保で、水谷村は水子村と針ヶ谷村です。鶴瀬の名は鶴馬の「鶴」と勝瀬の「瀬」、水谷村も同様に水子の「水」と針ヶ谷の「谷」を取って名付けられました。

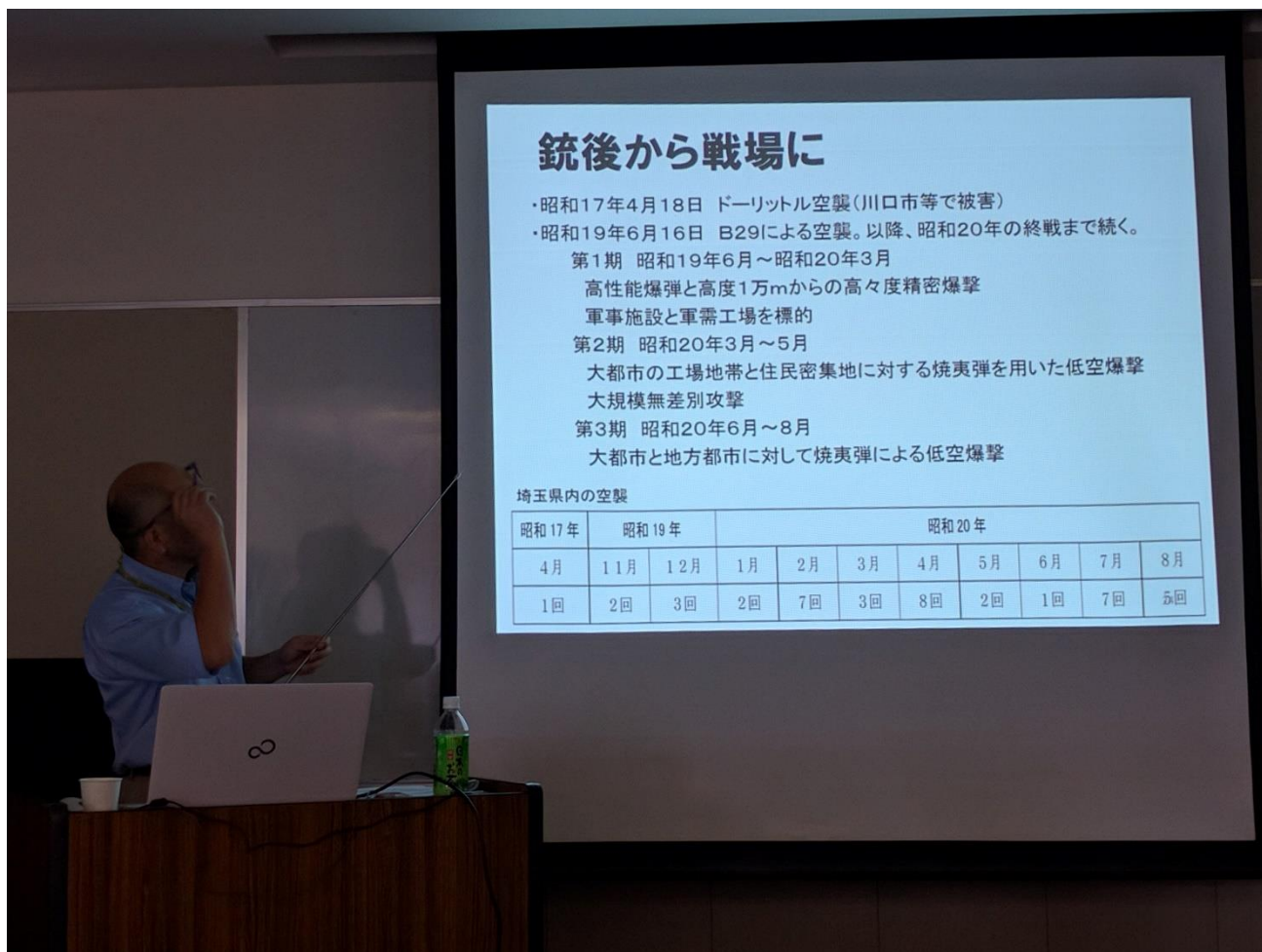
関東大震災の時の被害状況の説明では、鶴瀬村は比較的安定した地盤で、水谷村も被害はあったが家屋の全壊や半壊はなく、南畑村は砂質土壌で地盤が緩いため、全壊家屋約 60 戸、半壊 23 戸被害が多かった。



鶴瀬村、水谷村に関しては合併する村の合併条件が異なり、紆余曲折を得て決まっていく過程の説明がありました。資料は残されていた水谷村役場の町村合併に関する資料から経緯が分かったことの説明があり、町村合併の指針などもあり、埼玉県の方針で合併推進をしたことなど、大変興味深いものでした。

昭和に入ってから合併は時期も戦争直前になり、紀元 2600 年を記念した町村合併となり、水谷村の志紀町への合併などがありました。

戦争に関しても触れられ、戦争中に銃後から戦場になった本土で富士見村も空襲を受けました。昭和 20 年 4 月 2 日には東京武蔵野市にあった中島飛行機工場を目標とした米軍の B 29 の爆撃のコースになり、針ヶ谷、水谷などに焼夷弾や爆弾 4 個が落とされました。鶴瀬村は 3 軒が被弾しました。この時の資料は米軍の記録資料などで説明がありました。



戦後の町村合併の歴史も鶴瀬村からみた資料などが残されており、合併する村同士の思惑が入り乱れている様子がわかりました。

「富士見」名称は合併協議中の鶴瀬村役場の「合併研究会幹事日誌」に記載はなく、9月の議事録に他の名称と併記されて「富士見」記述がありますが、「富士見村」となったのはどのような経緯かが不明ですが、9月22日の間に決まったようです。

”富士山が見える場所は関東近郊が多く、村のどこからでも富士山が見えることからこの名前も無理はないと思われたのでしょうか”と富士山可視マップでの説明がありました。

以下 説明資料を参照願います。

平成28年度 富士見市民大学
6,000年の富士見の歴史を展望する

平成28年6月11日

村の発展と「富士見」誕生 ～ 近代・現代 ～

富士見市立水子貝塚資料館

加藤 秀之

富士見市の近代・現代の出来事

明治時代

- ・ 明治維新
- ・ 寺子屋から学校へ
- ・ 三村の誕生
- ・ 日清、日露戦争
- ・ 明治43年の大水害

大正時代

- ・ 新河岸川の改修
- ・ 東上線の開通
- ・ 関東大震災
- ・ 南畑小作争議

昭和時代

- ・ 15年戦争(日中、太平洋戦争)
- ・ 水谷村合併、独立
- ・ 三村合併＝富士見村

平成26年(2014)

- ・ 5月: 東上線開通100年(大正3年)

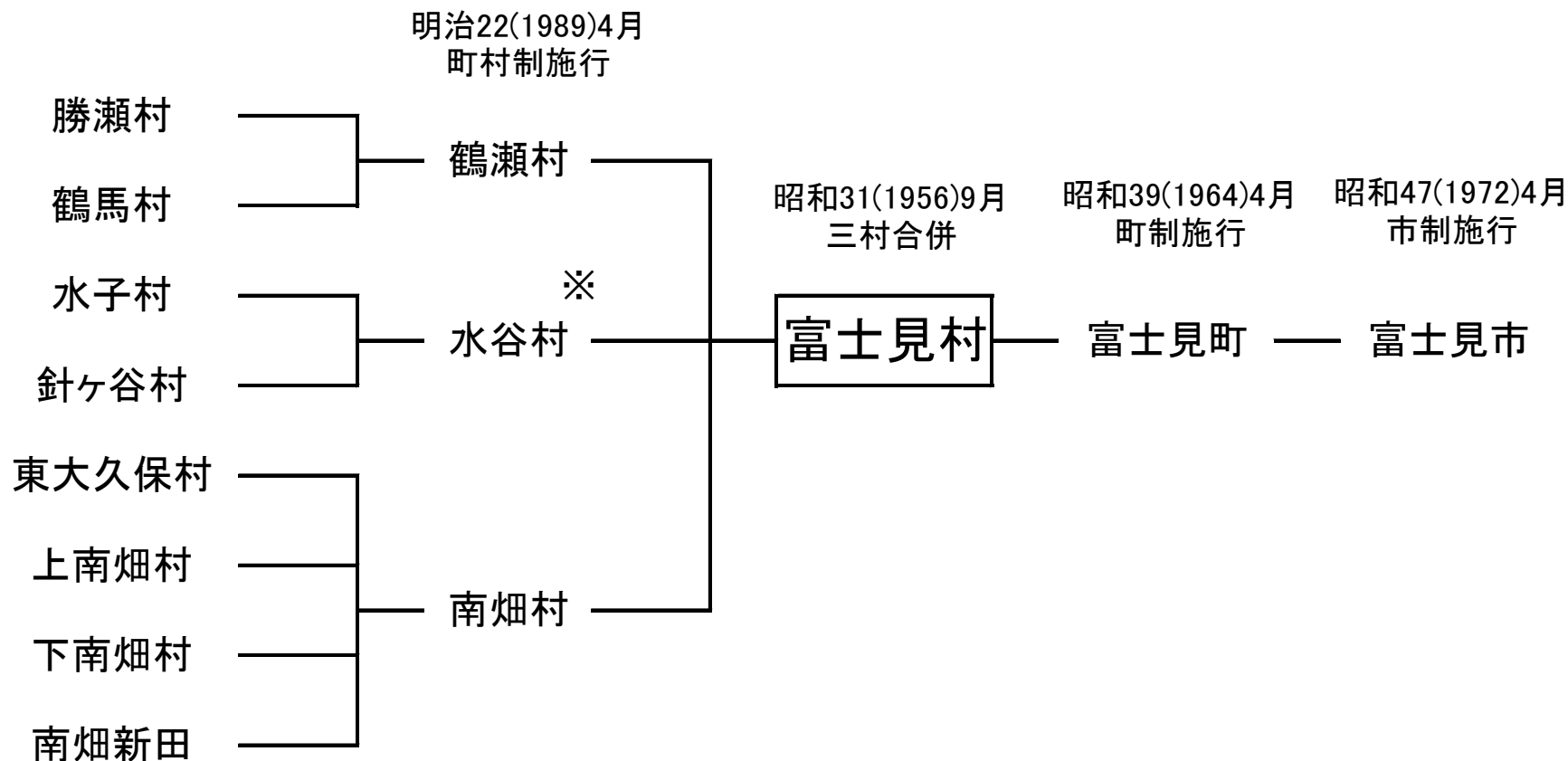
平成27年(2015)

- ・ 8月: 戦争終結から70年(昭和20年)

平成28年(2016)

- ・ 3月: 東日本大震災から5年(平成21年)
- ・ 9月: 富士見村施行60年(昭和31年)

富士見市までの変遷



※ 水谷村は、昭和19年(1944)2月～昭和23年4月まで志紀町の一部。

明治の町村合併（三村のはじまり）

- 明治21年（1888）4月 市制・町村制 公布
明治22年（1889）4月 //

全国的に大規模な町村合併を進める



- ◆ 明治21年（1888）7月 埼玉県 合併の基本
 - ・300～500戸を新町村の標準
 - ・原則として戸長役場の管轄区域内の町村を合併
 - ・新町村名は原則として合併した町村の中の大町村の名称を用いる
 - ・意見が対立した場合はそれぞれの町村の名称を折衷

◆ 行政事務を負担しうる能力をもった町村をつくる
必要から、様々な反対を押し切って合併を推進

◆ 郡長が原案作成

- 鶴馬村、勝瀬村
- 水子村、針ヶ谷村
- 上南畑村、下南畑村、南畑新田、東大久保村

※ 参考) 連合戸長役場(明治17年5月)

- 鶴馬村、勝瀬村、駒林村
- 上南畑村、下南畑村、南畑新田、東大久保村
- 水子村、宗岡村
- 針ヶ谷村、藤久保村

明治の合併時の村の状況

明治21年調査

新村名	旧村名	面積	戸数	人口
鶴瀬村	鶴馬村	527.3	303	1,856
	勝瀬村	151.4	100	603
	計	678.8	403	2,459
南畑村	上南畑村	184.8	144	932
	下南畑村	275.2	209	1,276
	南畑新田	83.0	64	441
	東大久保村	142.8	124	722
	計	685.9	541	3,371
水谷村	水子村	386.8	281	1,613
	針ヶ谷村	45.2	34	230
	計	432.0	315	1,843
総 計		1796.6	1,259	7,673

『新編埼玉県史』別編5 より

明治21年調査

新村名	旧村名	面積	戸数	人口
鶴瀬村	鶴馬村	527.3	303	1,856
	勝瀬村	151.4	100	603
	計	678.8	403	2,459
南畑村	上南畑村	184.8	144	932
	下南畑村	275.2	209	1,276
	南畑新田	83.0	64	441
	東大久保村	142.8	124	722
	計	685.9	541	3,371
水谷村	水子村	386.8	281	1,613
	針ヶ谷村	45.2	34	230
	計	432.0	315	1,843
総 計		1796.6	1,259	7,673

『新編埼玉県史』別編5 より

県の説明

・鶴馬村は、区域も広いが戸数が標準に満たない。

・勝瀬村と駒林村は民情が適合しない。

・新村名は、「**鶴瀬村**」とする。

・大村の鶴馬村の名称だけをつけると、勝瀬村から苦情が出る。



2ヶ村とも合併区域、新村名に異議なく承諾した

明治21年調査

新村名	旧村名	面積	戸数	人口
鶴瀬村	鶴馬村	527.3	303	1,856
	勝瀬村	151.4	100	603
	計	678.8	403	2,459
南畑村	上南畑村	184.8	144	932
	下南畑村	275.2	209	1,276
	南畑新田	83.0	64	441
	東大久保村	142.8	124	722
	計	685.9	541	3,371
水谷村	水子村	386.8	281	1,613
	針ヶ谷村	45.2	34	230
	計	432.0	315	1,843
総 計		1796.6	1,259	7,673

『新編埼玉県史』別編5 より

県の説明

- ・水子村と連合している宗岡村を1村で独立させる見込みのため、水子村は針ヶ谷村と併せなければ1村を作ることができない。
- ・新村名は、「**水谷村**」とする。
- ・役場の位置は、水子村に置く。

- ・明治21年9月～

東大久保村の総代が上南畑村連合戸長に対して、新村名は村民一同不平であり納得できない。

「大畑村」とするか、双方の字を入れた新村名、全く関係のない新村名を要望 ↓

- ・「南畑村」のほかに「南畑久保村」も検討

- ・明治22年1月～

南畑三村は県知事に意見書

土地、戸数とも三村で十分。東大久保村とは人情や風俗が異なり、明治17年依頼常に折り合いが良くない

↓

- ・東大久保村を除く、南畑三村での合併を主張

- ・明治22年4月

県原案どおり強制的に合併し、「南畑村」となる

埼玉県内 377の町村

- ◆ 大村の村名 ... 148町村(南畑村)
- ◆ 折衷した村名... 51町村(鶴瀬村、水谷村)
異議申し立ては 173件
(新村名は、44件)

三村の誕生(明治22年4月)

- 鶴瀬村、南畑村、水谷村

関東大震災

- 大正12年(1923)9月

死者91,000人強、行方不明13,000人強

全壊、半壊家屋が各175,000戸強、焼失家屋38万個強

- ・水谷村(「水谷村郷土調査」)

倉庫2棟全壊、家屋土蔵壁破損90棟、屋根瓦落ちたものの115棟、神社の鳥居の倒壊5件、石灯籠の倒壊3対、墓石倒壊約380基、掘貫井戸の破損5、村内の全戸の時計停止。

- ・南畑村(「南畑村郷土調査」)

本村は砂質土壌で地盤が緩いため、今回の大地震による被害は大きかった。全壊家屋約60戸、半壊家屋23戸、その他を合わせ約58,000円の損害があった。



被災支援(「水谷村郷土調査」)

- ①村内一般から義援金を募り、342円20銭を入間郡長宛送付
- ②避難者178人に対して、一人一日20銭、13日分の見舞金を埼玉県知事に請求し、配布。
- ③在郷軍人会水谷村分会が272円の義援金を集め、東京市支援のため100円を寄贈、村内避難者257人に一人あたり50銭と手拭いを贈る。
- ④青年団は、さつま芋62俵、大根10俵、金20円の寄付を集め、埼玉県に提出。村内避難者229人に白米5合(504円48銭分)を贈る。
- ⑤女子青年団は、村内で寄付金を集め、避難者215人を慰問し。172人に手拭い1本、半紙2帖、慰問状1通を贈る。村内縁故者で死亡した人に香花1、避難学童に学用品を贈る。

	9月20日	9月30日	10月10日
東京方面	250人	235人	188人
横浜方面	8人	8人	8人
計	258人	243人	196人

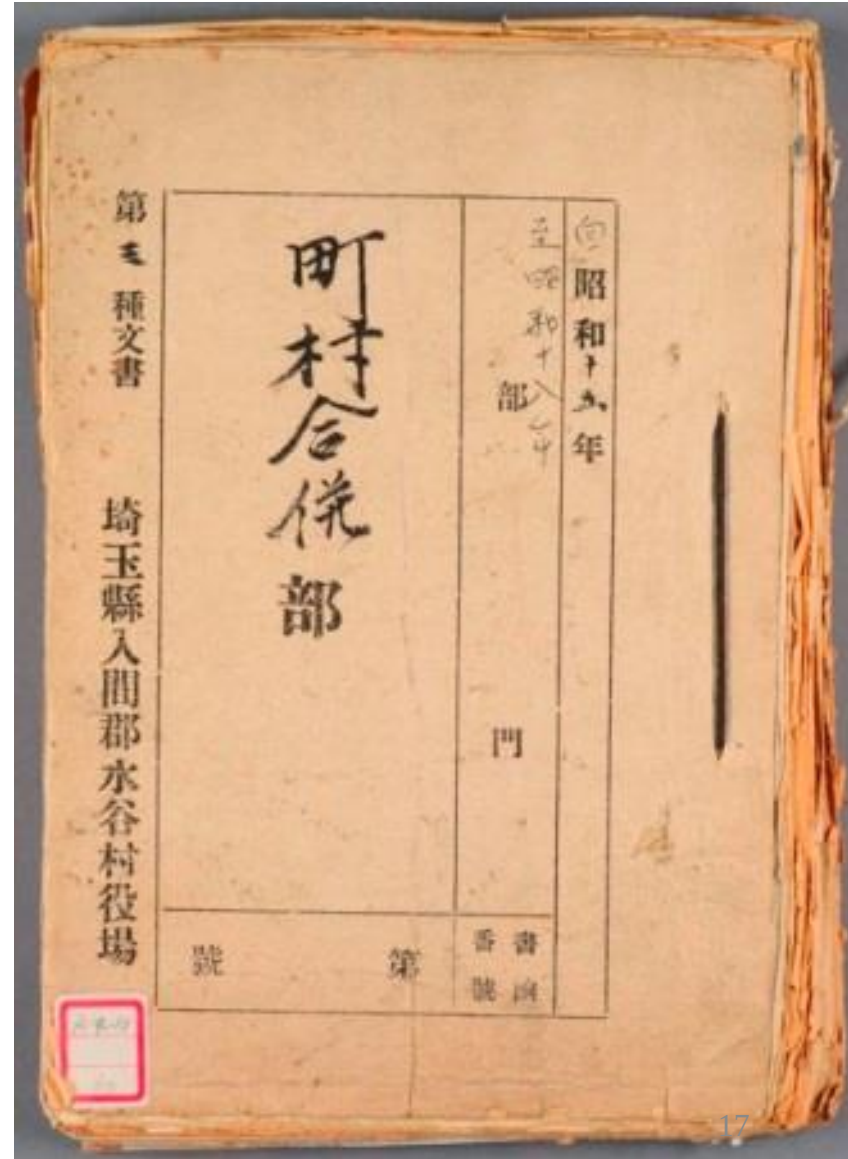
▲ 水谷村の罹災者数

大正12年				大正13年			
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
32人	32人	22人	16人	10人	10人	9人	0人

▲ 水谷小学校への臨時入学児童数

昭和の町村合併(戦前)

- ・紀元2600年を記念した町村合併(昭和15年)
- ・昭和19年2月11日
水谷村の志紀町への合併
- ・水谷村「町村合併」に
みる合併の経緯



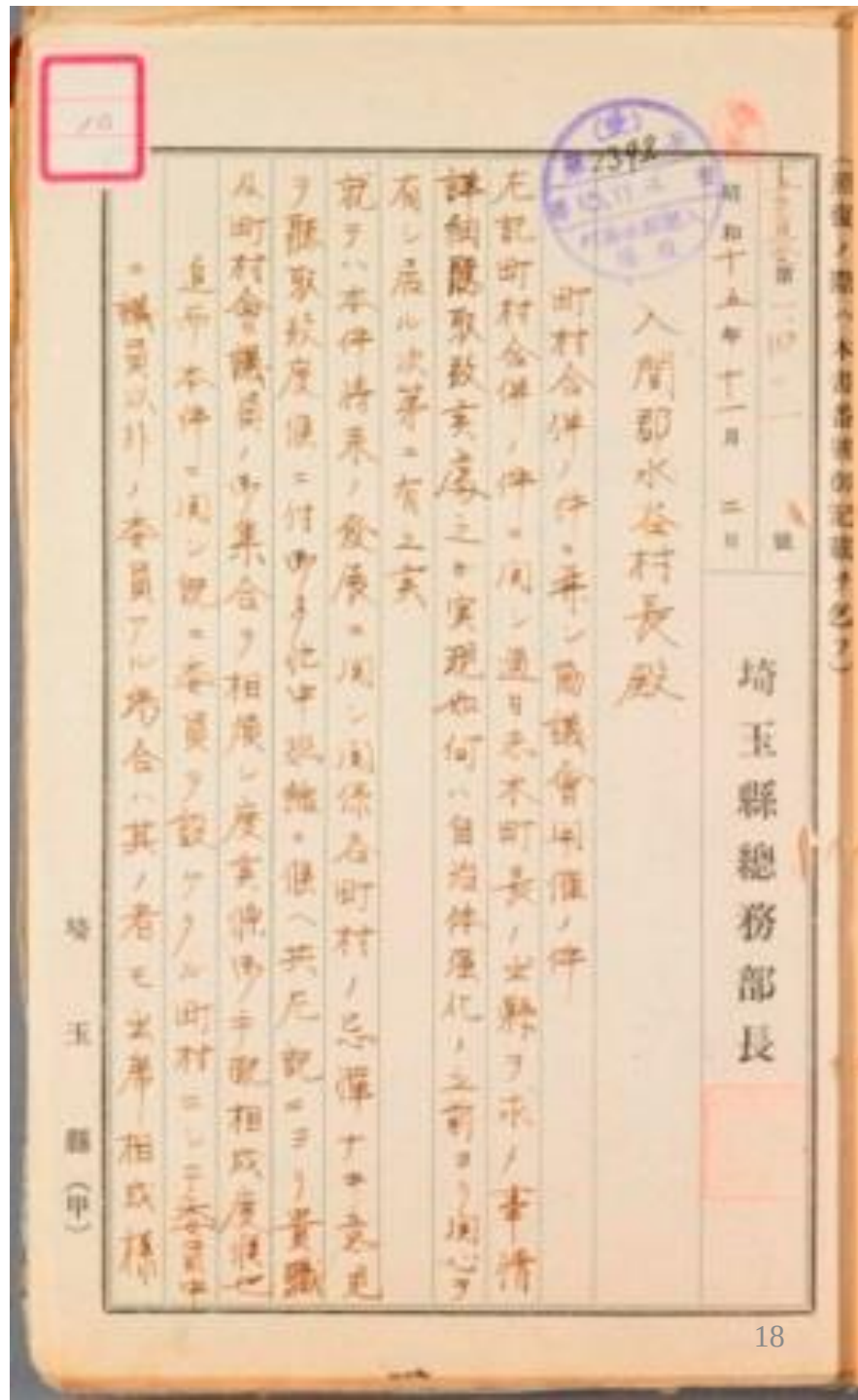
- 昭和15年11月8日埼玉県主催の合併協議会開催から、昭和19年2月10日の水谷村解散奉告祭と解散式開催通知文書までが綴られる。

水谷村から見た合併協議

第1期(昭和15年11月～昭和16年1月)

第2期(昭和17年5月～9月)

第3期(昭和18年10月～昭和19年2月)



- ・昭和15年11月

内間木村、志木町、宗岡村、水谷村に対し、「自治体強化の立前」から「関係町村の忌憚なき意見を聴取する」ため

- ・昭和17年9月までの、協議の進展はなし

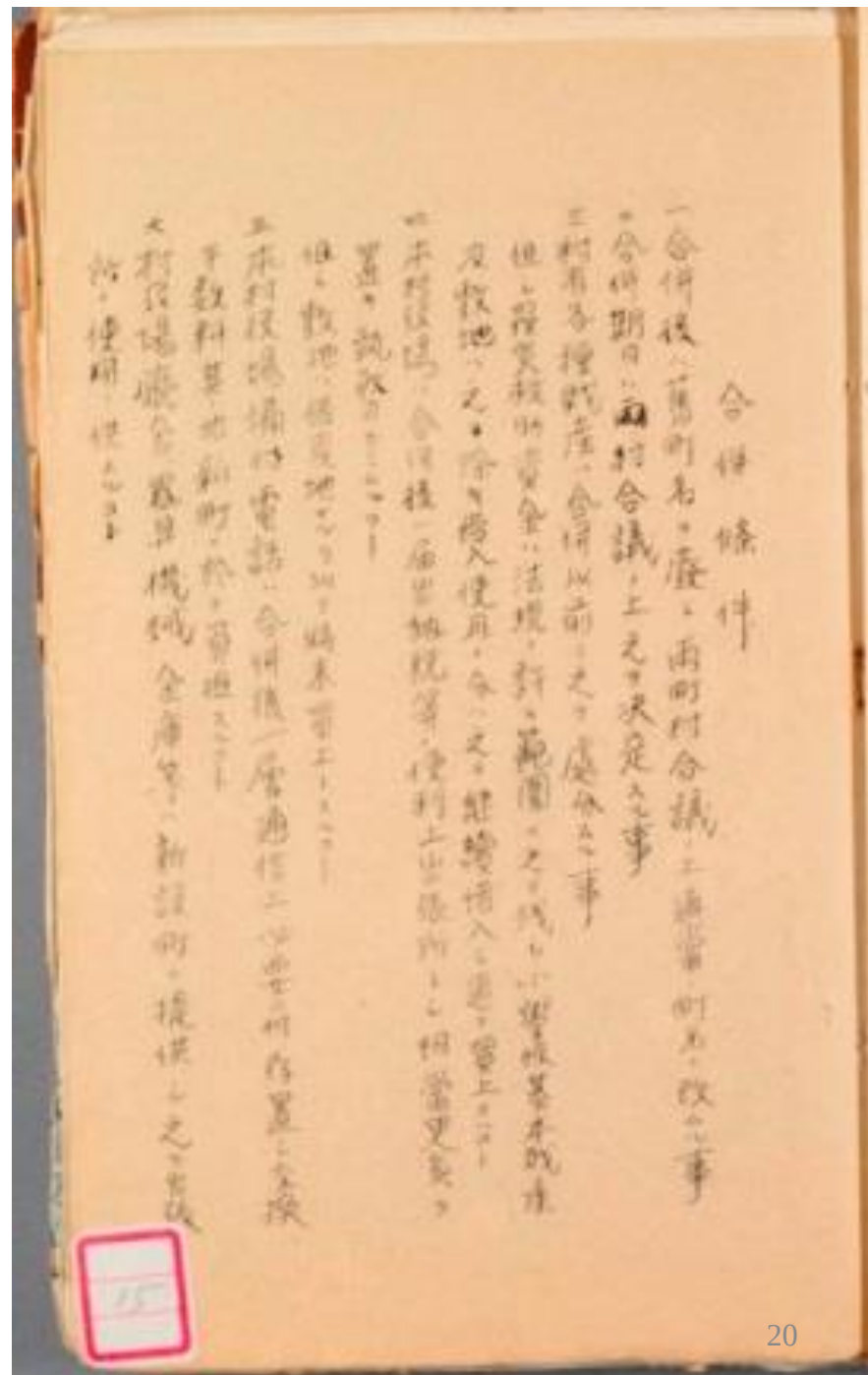
- ・昭和18年10月～

志木町外三ヶ村合併委員会開催以降、急速に合併協議が進む

・昭和18年11月30日
(水谷村)町村合併委員会

村の要望事項を協議

- ①地域拡大、②新町名、
③役場の位置、④議員定
数、⑤国民学校名称、⑥
吏員定数、⑦役場出張所
位置 等 11項目を協議



・昭和18年12月13日
志木町役場からの電話
新町名称は、

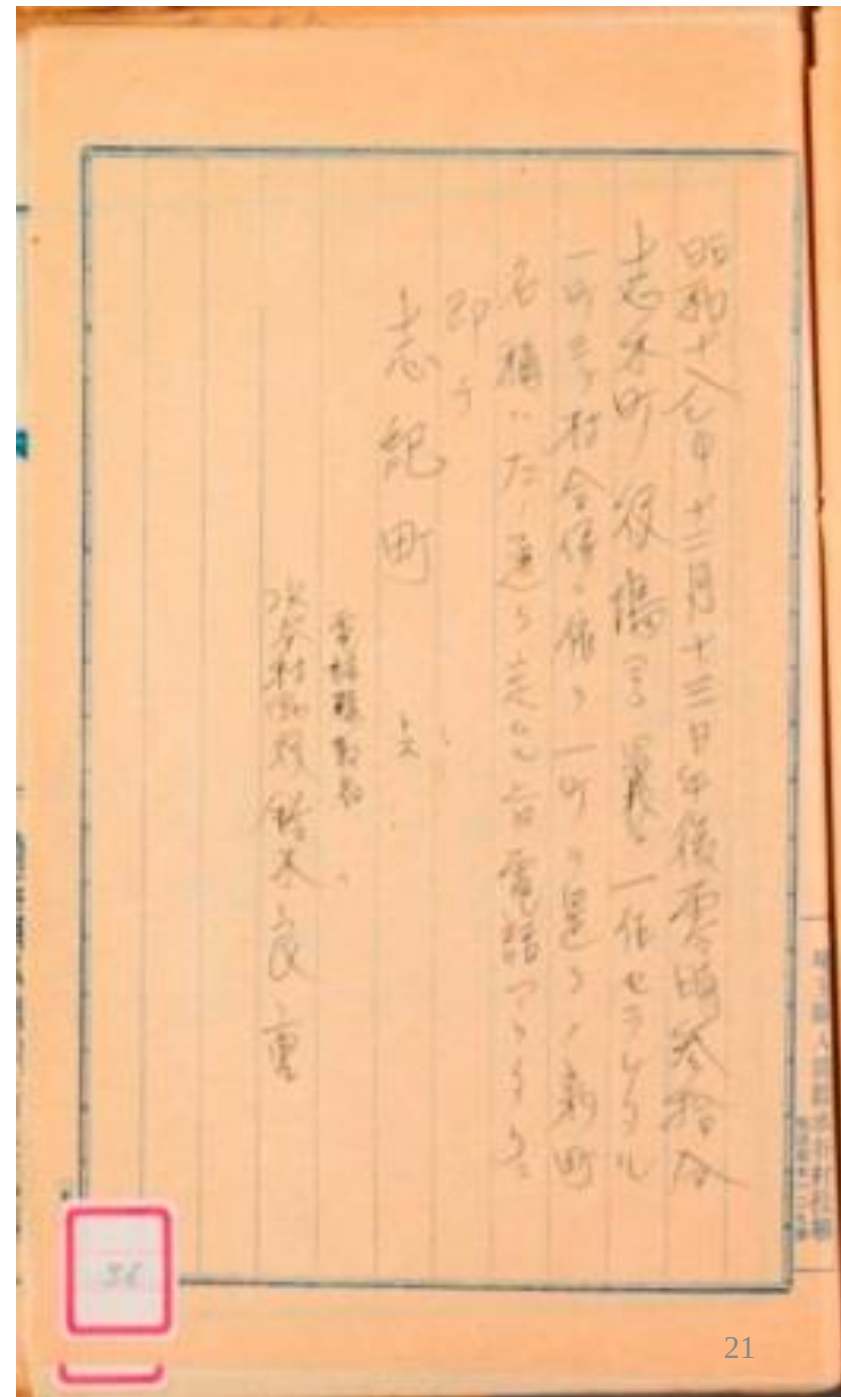
「即チ **志紀町** トス」

・昭和18年12月14日
村の合併委員会

「新町名ヲ定ムル件ニ付キ考慮
ヲ促スコトニ決シ折衝ヲナスコト
トス」

志木町長を訪問し、

「重大ナル事項ニ付キ即時採決
困難ナル」



- ・昭和18年12月17日 村の合併委員会 開催

「**新町名ハ賛成**ニ付キ町村併合ハ進ンデ行ノ可キデアル旨ヲ述ブ」

新たな「町政ヲ施行スルハ**現下ノ情勢ニ即シ**最モ緊要ナル所以ニシテ公益上極メテ必要ナルモノト信ズル」

- ・昭和18年12月27日

県知事からの合併の諮問に対し、村会として「**本件ハ異議無之**」

- ・昭和19年1月15日

27項目の合併条件を協議

合併条件

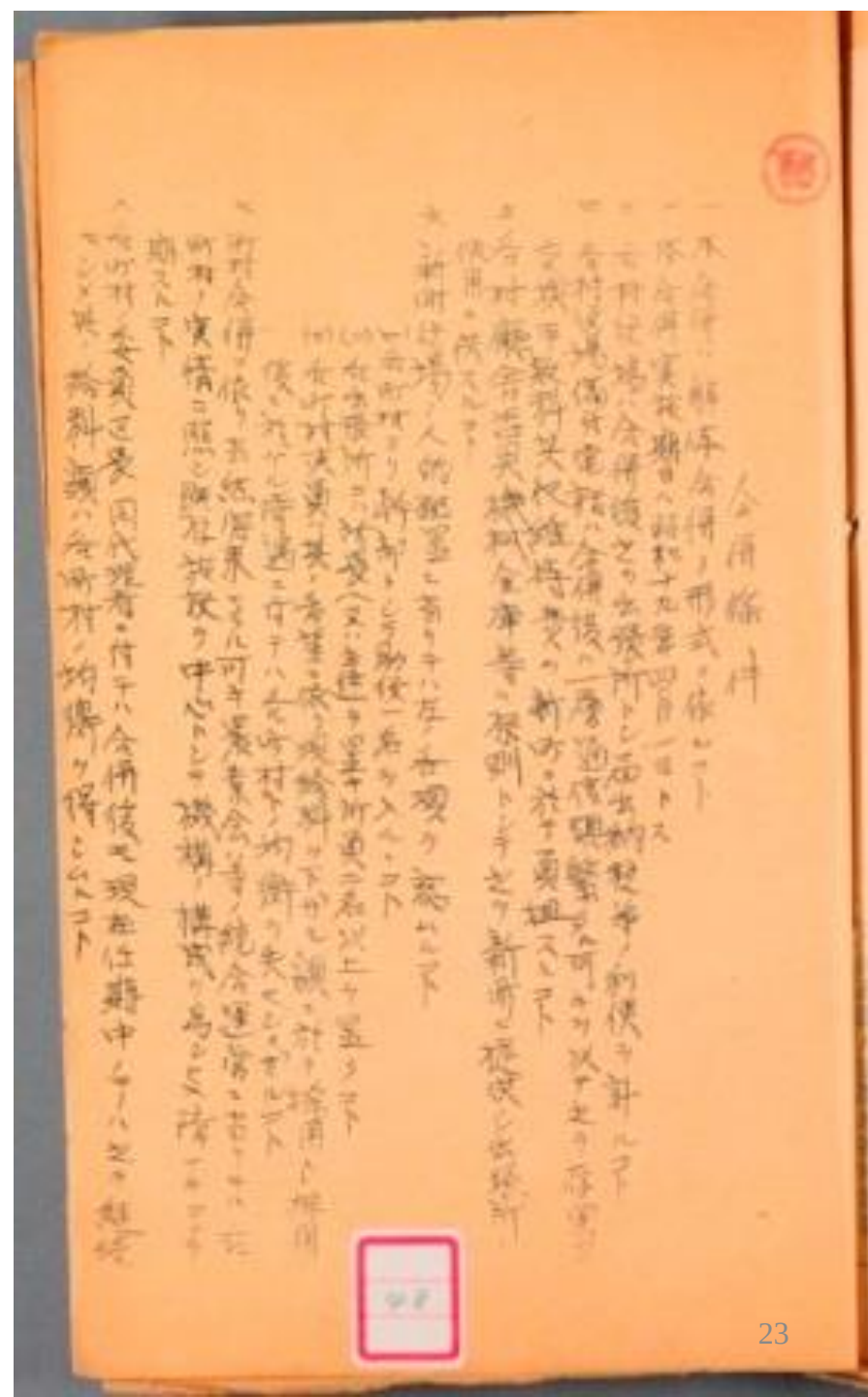
- ①解体合併の形式
- ②合併期日ハ**昭和19年4月1日**トス

：

：

・昭和19年2月11日

水谷村は解散し志紀町の一部となる



銃後から戦場に

- ・昭和17年4月18日 ドーリットル空襲(川口市等で被害)
- ・昭和19年6月16日 B29による空襲。以降、昭和20年の終戦まで続く。

第1期 昭和19年6月～昭和20年3月

高性能爆弾と高度1万mからの高々度精密爆撃

軍事施設と軍需工場を標的

第2期 昭和20年3月～5月

大都市の工場地帯と住民密集地に対する焼夷弾を用いた低空爆撃

大規模無差別攻撃

第3期 昭和20年6月～8月

大都市と地方都市に対して焼夷弾による低空爆撃

埼玉県内の空襲

昭和17年	昭和19年		昭和20年							
4月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
1回	2回	3回	2回	7回	3回	8回	2回	1回	7回	5回

・昭和20年4月2日の出来事

当事者の言

午前2時50分頃でしたが俄かに編隊らしき轟音が大きくなってきたと思った途端、我が家の周りにまず照明弾が落とされ真昼のように一瞬明るくなったのです。それに続いて4発の爆弾が落とされたのです。(中略)

爆弾はまさにその直後だったのです。(中略)バーン、ドカーン、ガラガラと物凄い爆音と共に、建物はおろかそこら辺のありとあらゆる物体が吹っ飛び、粉々になりました。(中略)

私は夢中になって家族を探しました。残念ながら母屋にいた6人のうち、祖母、母、姉、弟の4人が犠牲となり、(中略)弟と妹は(中略)命拾いをしたのです。

村内で被爆したのはわが星野家のほかに、近所の隈川亀次郎家と田中四郎家の3軒でした。隣の南畑村も何発か落ちて被害がありました。隈川家は1発の時限爆弾で全壊しましたが、幸い犠牲者はありませんでした。(中略)

田中家は奥さんと娘さんが防空壕の中で爆死されました。(中略)防空壕には7人がいて、5人の方は辛うじて助かったと聞いています。(中略)

大東亜戦争での鶴瀬村の被爆はこの3軒のみでしたが、戦時中のことですから何の保証も無く、すべて泣き寝入りでした。

星野定太郎 著 2011 『至誠に生きて(回想録)』より

氷川神社の不発弾

4区 細田稔(談)

昭和20年4月2日の事である。私が警防団の集まりから家へ帰る途中、神山輝男さんの家の付近を通りかかると、突然「ヒュー」という音がして爆弾が落ちてきた。「ついに来たか」という感じだった。

針ヶ谷の氷川神社の前に落ちた爆弾は、どういうわけかさかさに落ちたために不発となった。村の人たちの間では「神様の御加護があった」などといわれて、一時評判になったものである。

また、その時に細田英太郎さんの家では蚕室と物置が爆弾でやられ、蔵も傾いてしまったが、その他の被害はなかった模様である。(以下略)午前2時の真夜中のことでした。空襲は、その前の年あたりから激しさを増してきて、ほとんど毎日空襲警報が発令されている状況でした。(中略)

水谷地区の被害

2区 清水勝三

針ヶ谷に2発(1発は不発)物置倒壊の被害、水子地内は3発、人畜に被害はなし。しかし水谷小前の同期の故田中忠吉氏の物置は、爆撃前にバラまかれた照明弾の吊が半開きのために点火したものが落下し、全焼した。

明治時代からの京塚せんべいでゆうめいだったおばあさんが土葬されて間もなくのこと、地藏山の墓地が直撃され、この御仏は2回埋葬された。

富士山の杉の根元にも投下され、爆風で飛ばされたが、なんと植えたような形で立っていた。もう遠い昔の出来事である。

1980『水谷公民館だより 第7号』(終戦後35周年を迎えて)より

市内の資料

事	記	童				兒				別種	初等科	高等科	特修科	計 合	四月三日 晴 天 温 度 直 宿
		席女	欠男	席女	出男	席女	出男	席女	出男						
警成警報 八時十五分 一時十五分 二時 一時十五分	二日前 午前十一時 空襲 被害地へ奉仕(九時)									年學一					
										年學二					
										年學三					
										年學四					
										年學五					
										年學六					
										計					
										年學一					
										年學二					
										計					
										科修特					
										計 合					

事	記	童				兒				別種	初等科	高等科	特修科	計 合	四月三日 大晴 天 温 度 直 宿
		席女	欠男	席女	出男	席女	出男	席女	出男						
一、相原江原内田小室富田 清水先生来校 一、警戒警報 丁時 一時十五分	一、高井科員集 被害地へ奉仕(九時)									年學一					
										年學二					
										年學三					
										年學四					
										年學五					
										年學六					
										計					
										年學一					
										年學二					
										計					
										科修特					
										計 合					

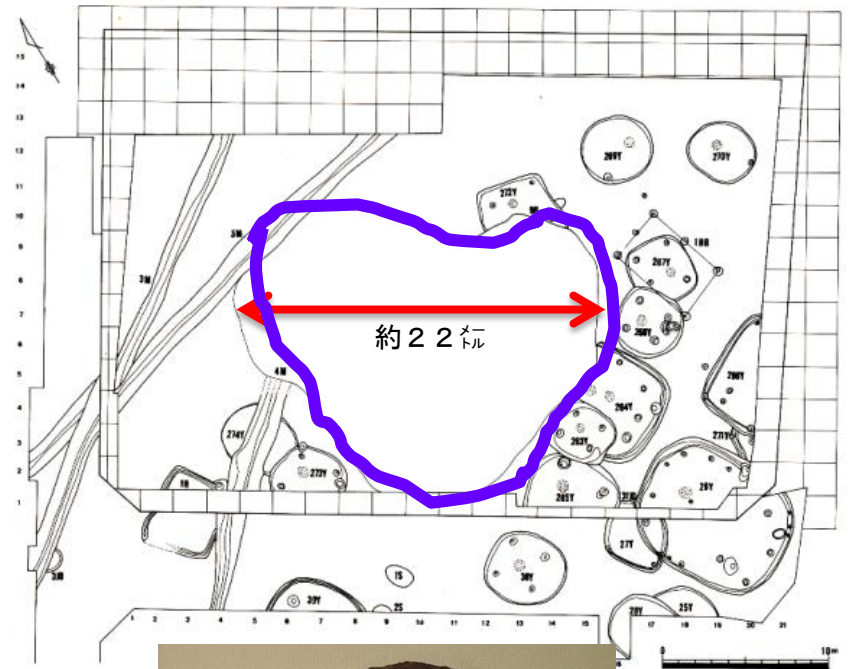
(第26)



昭和20年4月2日の空襲で傾いた蔵

富士見市教育委員会撮影

平成6年撮影。市内針ヶ谷。



▼昭和20年4月2日、B29による市内の爆撃コース
★印は爆弾の投下されたおおよその場所





昭和20年1月27日 千代田区、帝国ホテル裏



昭和20年4月1日 新宿区、淀橋戸塚町



昭和20年4月2日 三鷹市
中島飛行機



鹿児島県霧島市、菩提遺跡



練馬区、武蔵関北遺跡



大分県宇佐市、爆弾池

当日の状況

4月2日未明、東京の武蔵野市にあった中島飛行機工場と立川市の飛行場を空襲したB29約100機が埼玉県南部に分散して来襲しました。その内の数機が富士見市域にも侵入し、時限爆弾と照明弾を投下しながら北へ飛び去って行ったと伝えられています。

この目撃談は爆弾投下地点の針ヶ谷、水子、上南畑の3地点を結ぶ線が南北方向になることから、B29の飛行コースと一致しました。このとき水子地区では地蔵山から西桜井の水田をへて本郷の山林にかけ、長さ200メートルの間に25発ぐらいの爆弾が投下されました。投下から30分ほどたったころ次々と爆弾がさく裂し、高く吹き上げられた大量の土砂が激しい雨のように降り注いだそうです。直径10メートル以上のすり鉢状の穴が等間隔に続き、B29の弾倉から投下されたことを示すように2列に並んでいました。

体験者は「立ちすくみ茫然自失、気が付くとガタガタ震えていた。」と当時の様子を語っています。針ヶ谷では建物が損壊し、関沢では尊い人命が奪われてしまいました。

富士見の空襲被害の公的な記録は現在未発見です。体験者の記憶と掘り出された爆弾の破片のみが空襲の恐ろしさ、戦争の悲惨さを語り伝えています。

1995『広報ふじみ 8月10日号』より

4月2日の被害(全体)

①東京都内

- ・『東京大空襲・戦災誌 第3巻』、『警視庁史』では、14区市(現在)に被害あり
- ・武蔵野市(標的)、三鷹市、西東京市、小平市、東久留米市、武蔵村山市、清瀬市、多摩市、
- ・東村山市、国立市、町田市、練馬区、杉並区
- ・ほかに東村山市、青梅市、町田市にB29墜落

②埼玉県

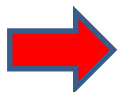
- ・『埼玉県警察史』では「入間、南埼玉、北足立の3郡及び川口市に照明弾や時限爆弾を混用投下した」との記述

③神奈川県

- ・『神奈川県警察史』等では、横浜市港北区恩田町、藤沢市辻堂、川崎市木月に被害あり
- ・ほかに川崎市生田にB29墜落

④栃木県

- ・『近代 足利市史』では、北郷村に被害あり(空襲の日は推定)



埼玉県内の被害状況は、東京都に比べ不明な点が多い。

県内の被害(詳細)

①和光市

『にいくら・さかした』和光市坂下公民館

- ・新倉小学校から荒川まで36発の爆弾が投下された。被害は、即死者8名、負傷のため入院し翌日死亡1名、建物全壊3棟、半壊7棟、爆風による家屋の被害23棟。
- ・小学校の窓ガラスが照明弾を反射し、異様に光った。これを米軍が軍需工場と間違えたらしい。

②志木市

『志木市郷土誌』

- ・幸町1丁目に投下された合計8胡の爆弾はその日の明け方から翌々日にかけて次々に爆発した。深さ4^丈の芋穴に対していた5人が爆弾のために生き埋めになって死亡した。

③所沢市

- ・松井村で3人、柳瀬村で1人が死亡。

④三芳町

『武田助役日記』

- ・松本宅の爆砕、畑地3ヶ所の爆破、阿部宅の小火。

⑤狭山市

『豊岡町長日記』

- ・入間川町鶉ノ木に30発、民家の破壊1、2戸。

⑥与野町

『井原和一日記』

- ・4月10日の「必勝防空態勢推進常会」(浦和警察署主催)において、「県内に侵入せるもの40機、所沢、志紀、大和町等20箇村に902個の爆弾落ち、死傷者80人、家屋全壊85戸、焼失4戸。」

SECRET

FOREWORD

XXI Bomber Command Mission No. 49 was a special operation and will receive special distribution.

Mission No. 50 was directed against targets on the Island of Kyushu. The report for that mission was combined with that for Mission No. 46, also directed against targets on Kyushu.



PART II Radar Navigation Chart

A-2 SECTION

XXI BOMBER COMMAND

TOKYO AREA
SCALE 1:1,000,000

Mission 51

CHART NO R-2

RESTRICTED



米軍記録資料

①『作戦任務要約』

作戦任務第51号

1. 日付 1945年4月1日
2. コード名 エンキンドル(Enkindle) No6
3. 目標 東京 — 中島飛行機武蔵製作所(357)
4. 参加部隊 第73航空団
5. 出撃爆撃機数 122機
6. 第1目標爆撃機数の割合 95%(116機)
7. 第1目標上空時間 4月2日2時1分～3時43分
8. 攻撃高度 5,900～7,960フィート
9. 目標上空の天候 晴れ、多少もや
10. 損失機数合計 6機
11. 作戦任務の概要

爆撃成果 — 写真解読による可視損害なし。3機が早期帰還、1機が離陸直後に墜落、5機が未確認の原因で行方不明。敵機の迎撃は微弱 — 攻撃回数35。敵機を1機撃墜、2機不確実撃墜、撃破なし。対空砲火は小口径、中口径、重砲、中程度ないし激烈、不正確ないし正確。上記の出撃機には、照明弾搭載の1機が含まれている。平均爆弾搭載量19,428ポンド。平均燃料残量737ガロン。

②『作戦任務報告書』

- ・米陸軍航空部隊 第21爆撃機集団 第73航空団による「夜間精密爆撃」(3/24～4/4)
- ・低高度による爆撃(約1750～2500^{ポンド})と1機の爆弾量の増加(約5倍)
- ・各機が、4個の照明弾(M-26)と36個の500ポンド爆弾(250^{キログラム})を搭載
- ・照明弾と時限爆弾(遅発信管)の使用

『第2次世界大戦における**米国**陸軍航空部隊史』第5巻

精密爆撃作戦 都市地域爆撃作戦 工業目標の攻撃 東京周辺飛行機工場爆撃

4月1日にオードンネル准将は中島飛行機武蔵製作所に対しB29 121機を差し向けた。各機は爆弾のほかに照明弾4発を携行していた。投下弾1019^トのうち4発のみが工場地区内に命中した。

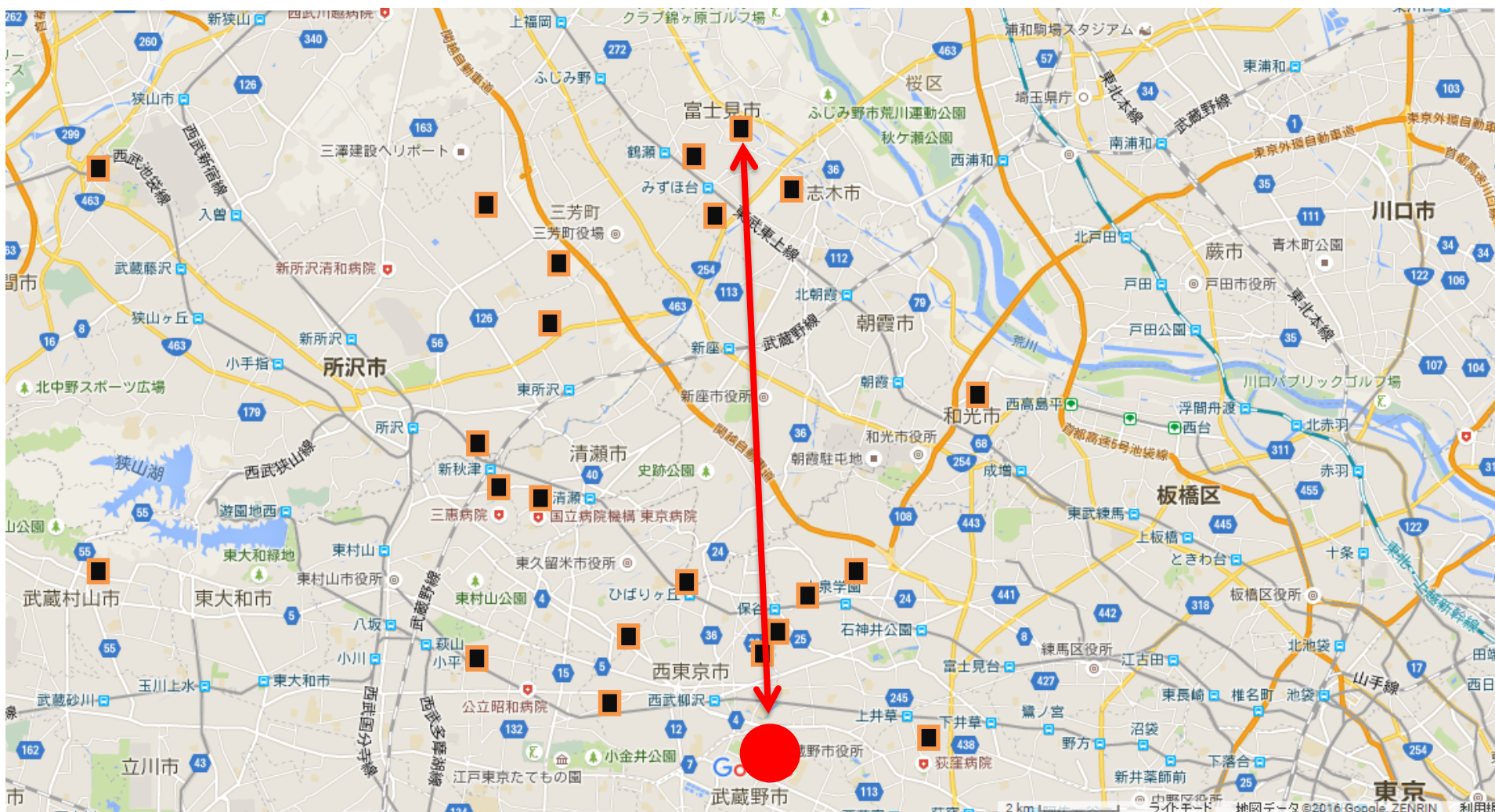
どの実験も肯定的証拠を与えなかったので、ルメイは三菱の静岡発動機工場、中島の小泉製作所および立川飛行機発動機工場に対し、4月3日夜、各1個航空団の兵力の攻撃を行なうことを命じた。第21爆撃機集団司令部は弾着平均点、爆撃高度および爆弾搭載量を指定した。各航空団は目標を照明するための独自の方法を選択する自由を与えられた。しかし、今度もどの攻撃の戦果も僅少であった。

4月2日空襲の**日本側**の記録

『戦史叢書 本土防空戦』

4月2日0200～0330 B29約50機が相模湾方面から本土に侵入し、主として中島飛行機武蔵工場及び立川付近に投弾した。去る3月9日の夜間空襲と同様に単機ごとの連続侵入であり、来襲高度は2000～3000米であったが、今回は焼夷弾攻撃のほか、照明弾を投下し瞬発及び時限爆弾をもってする攻撃も併用した。しかし、武蔵工場の被害は軽微であった。

同夜の戦闘において空地の要地防空部隊はいずれもその威力を発揮し、第10飛行師団は10機以上撃墜、高射第1師団も撃墜9機、撃破10機の戦果をそれぞれ報じた。同高射師団の射耗弾は7高535発、8高820発、12高197発、計1552発であった。



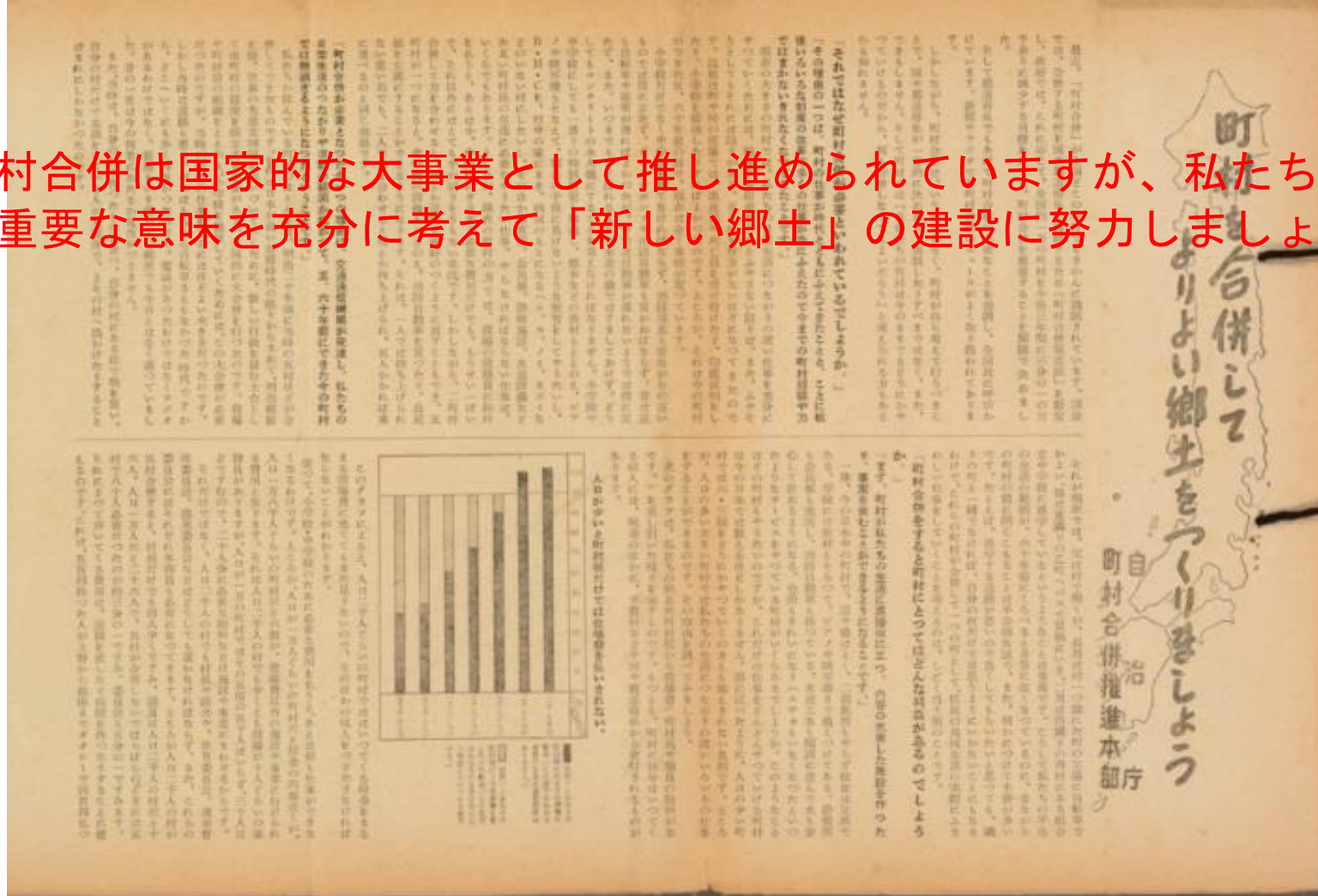
空襲目標と爆弾投下地

昭和の町村合併（戦後）

町村合併特例法と埼玉県の動向

- 昭和28年10月 町村合併促進法
全国で1万余の町村自治体を3年で3分の1
↓
- 同月 埼玉県合併促進審議会
↓
- 昭和29年2月 審議会による「合併試案」作成
県内314町村を73町村とする

町村合併は国家的な大事業として推し進められていますが、私たちもその重要な意味を充分に考えて「新しい郷土」の建設に努力しましょう。



- ①合併の必要性：・時代の変化と戦後の制度改革による業務の増加
・交通の発達と活動範囲の拡大
- ②合併の利益：・生活に役立つ、内容の充実した施設を作る
・役場事務の効率化によるサービスの向上
・役場が豊かになり、優秀な人材が集まる

(北足立郡)

番号	新町村人口	同上面積	合併関係町村		
			町村名	人口	面積
2	26,316	30.73	朝霞町	11,864	10.80
			大和町	10,240	10.95
			片山村	4,212	8.98
3	22,038	35.42	宗岡村	2,762	5.74
			内間木村	2,821	8.14
			水谷村	2,649	4.58
			志木町	6,959	3.08
			大和田町	6,847	13.88

水谷村は、

宗岡村(志木市)・内間木村(朝霞市)・志木町・大和田町(新座市)

(入間郡)

番号	新町村人口	同上面積	合併関係町村		
			町村名	人口	面積
1	20,591	48.13	大井村	4,535	8.14
			鶴瀬村	4,332	7.23
			南畑村	3,667	7.85
			三芳村	4,280	15.42
			柳瀬村	3,777	9.49

現入間東部の多くの町村

柳瀬村(現所沢市)

(市)

番号	新町村人口	同上面積	合併関係町村		
			町村名	人口	面積
6	107,868	116.26	川越市	52,820	17.17
			芳野村	4,500	10.65
			山田村	3,398	6.26
			古谷村	5,454	12.14
			南古谷村	5,347	8.78
			高階村	5,524	5.01
			福岡村	7,461	6.79
			福原村	4,841	11.92
			大東村	6,912	11.55
			名細村	5,546	12.32
			霞ヶ関村	6,055	12.77

福岡村は、

川越市のブロック

埼玉県合併試案

町村合併試案図表



水谷村資料

- 審議会の「町村合併試案」を受けて、各町村で合併促進の体制が進む



- 昭和29年5月

鶴瀬村町村合併研究会

南畑村町村合併促進研究会

水谷村町村合併促進委員会



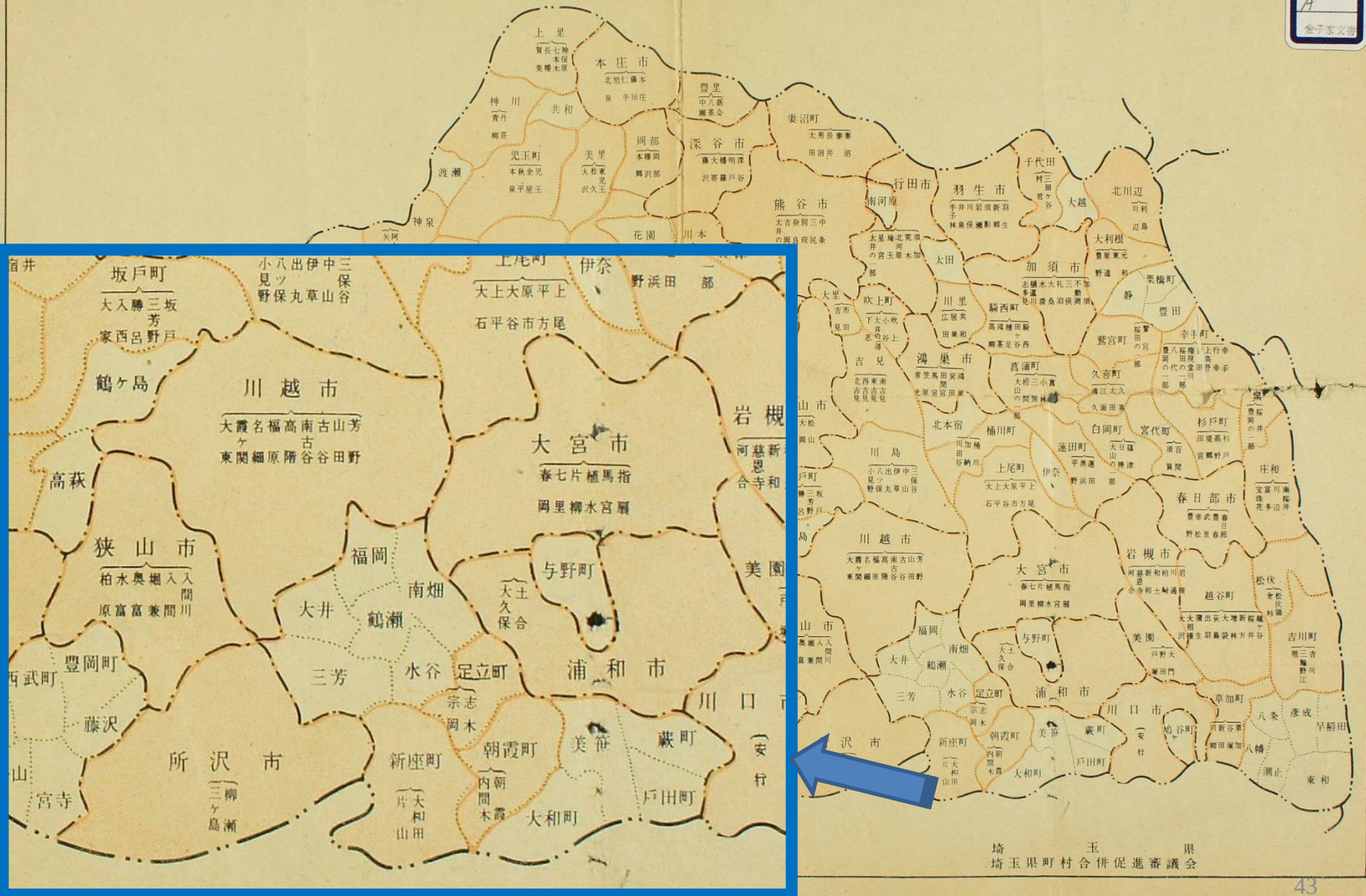
- 鶴瀬行政支会合併促進研究会（鶴瀬ブロック）
幹事：鶴瀬村

昭和31年5月

埼玉県町村合併状況

(昭和31年5月1日現在)

24
A
金子文書



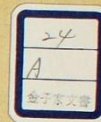
埼玉県町村合併促進審議会

昭和31年10月

埼玉県町村合併状況

昭和31年10月1日現在

(赤字は未合併町村)





鶴瀬村 「町村合併研究会幹事会日誌」にみる 合併の経緯

- 昭和29年5月6日鶴瀬村研究会の発足から、昭和31年10月7日の3村合併の祝賀式開催通知文書までが綴られる。
- 1期(S29.5～S30.4)
- 2期(S31.8～S31.10)

鶴瀬村から見た合併協議

昭和廿九年五月

町村合併研究会
幹事会
日誌

鶴瀬村役場



謹啓

秋深まり 桑葚の候 益々由請米の段 お慶び申し上げます
拘 今因 三村の合併が成立 去る五月三十日 新卒に 富士見村として 発定
出来ました事は 偏に 皆様方の限り無き 由力添の賜と厚く由礼申し上げます
就いては 左記により 祝賀式を挙行いたしましたことになりまじきもので 由多謝
の折 由迷惑下ら 由参列の衆を賜りたく 由案内申し上げます

昭和三十一年十月二日

入間郡富士見村長取務執行者 吉田繁太郎

殿

記

一日 時

十月七日 午後二時

一場 所

富士見村立鶴瀬中学校

第1期

- 当初の各村研究会の意見

- 鶴瀬村

- ①鶴瀬・大井・三芳 ②三芳・鶴瀬・南畑・水谷 ③福岡合併
は気乗りせず

- 大井村

- ①大井・三芳・鶴瀬・福岡を希望、一部福岡編入反対 ②南
畑村との合併は反対

- 福岡村

- ①福岡・大井 相当交渉済み ②福岡・大井・鶴瀬・高階村を
編入して実現したい ③福岡・大井・鶴瀬・三芳、南畑村合併
希望なし

- 南畑村

- ①ブロック合併に賛成 ②ブロックで合併できぬ場合は水田地区で ③鶴瀬・南畑・水谷が見える

- 三芳村

- ①三芳・鶴瀬には相当実現可能あり、水谷も合併したい
- ②ブロック合併に福岡も合併する場合は所沢へ ③三芳・大井・鶴瀬の線も実現

- 柳瀬村

記載なし、当初から所沢合併を希望

○各村においても合併の組合せは複数案

○第1回鶴瀬ブロック研究会 ⇒ 結論です

その後の鶴瀬村の動き

- 昭和29年7月 「本村としては三芳南畑村と極力合併を促進することに決定す」
- 10月 「南畑村との合併を本として水谷三芳に呼かけることに決定す」
- 12月 議会決議
「一、合併発足の時期を昭和30年3月1日を目標と定め合併を促進する
一、合併関係村を左のとおり定める
南畑村 三芳村 水谷村 大井村
- 昭和30年2月 「大井村長よりの「申入書」(大井、鶴瀬、福岡の三ヶ村で合併したい)に対してどう返答するか」
- 3月 「現状の状勢は三芳鶴瀬及南畑との三ヶ村合併の線が強く打ちだされてきました」

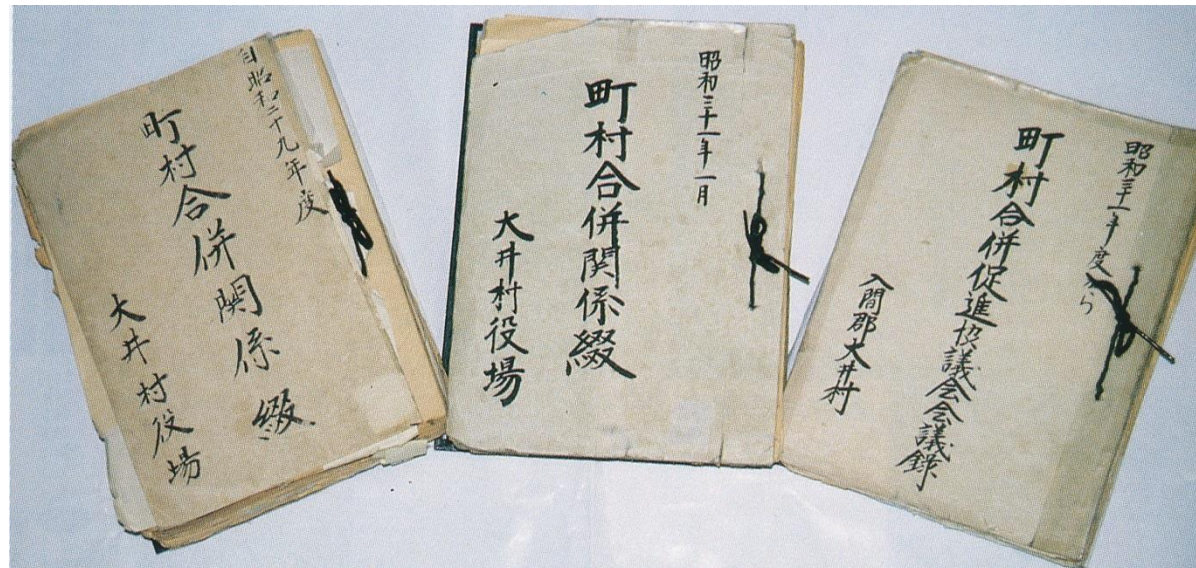
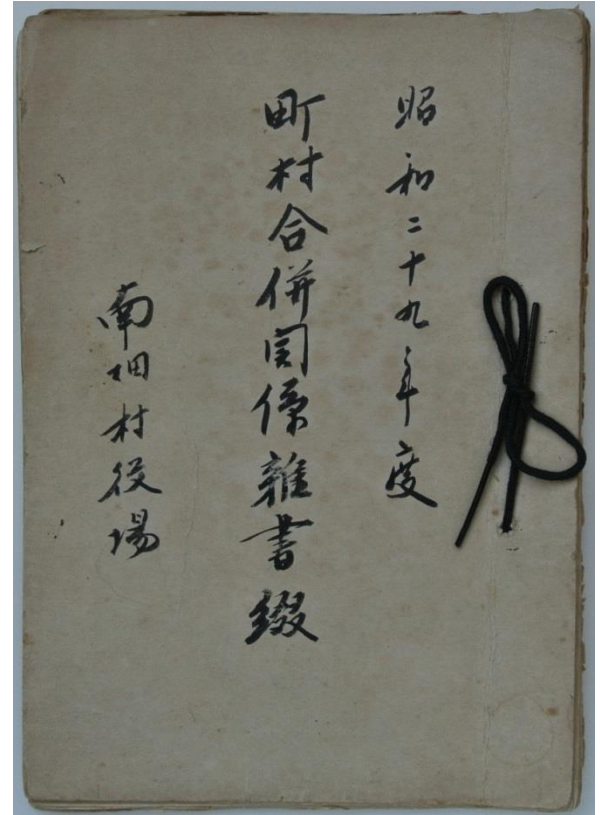
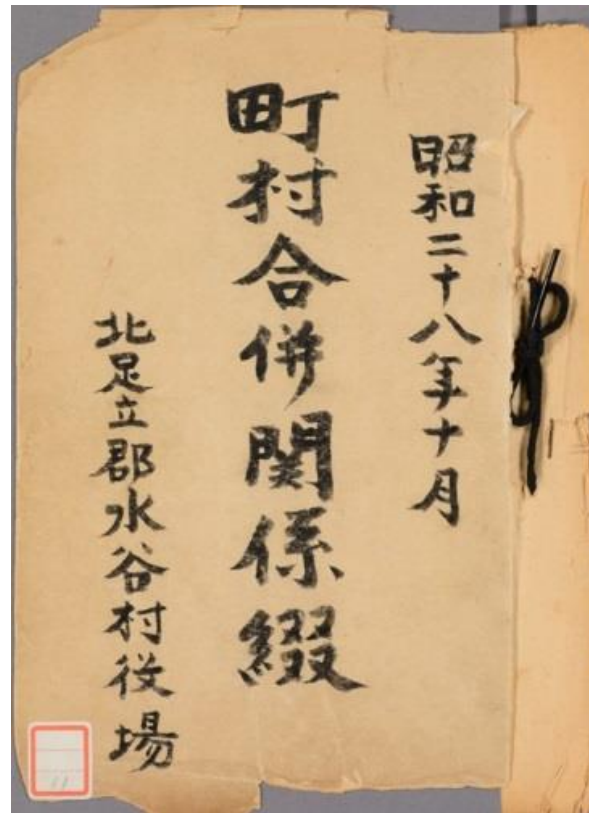
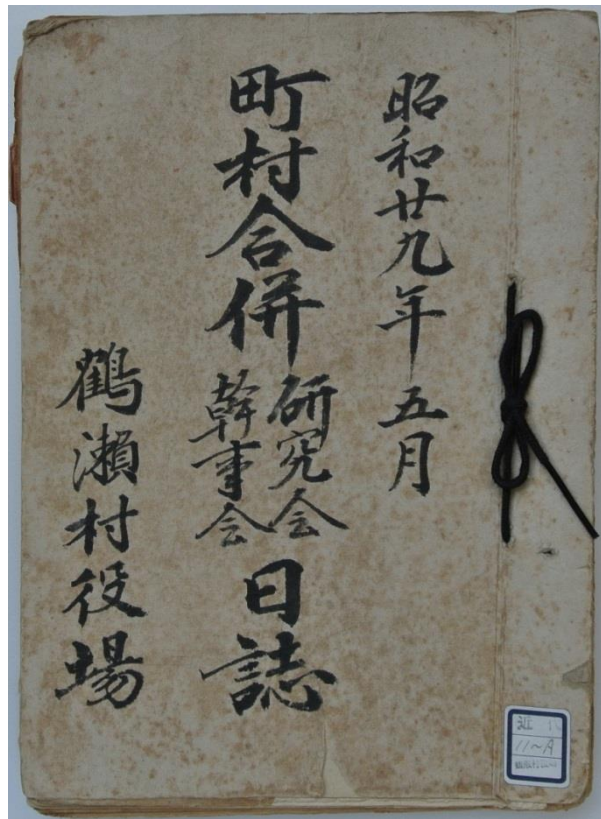
- 4月 「今回本村としての希望通りブロック合併の線が強く打ち出され、(中略)ブロック村左記のとおりです

鶴瀬 南畑 三芳 大井 福岡

- 4月 「本日(15日)、大井村は四ヶ村合併が遂に不調におわったとのこと」



相手方の村の動向を見ながら組合せが調整されてきたが、不調に終わり、一時合併協議は中断する。



第2期

町村合併促進法の期限切れ間近になり、合併協議再開

- 昭和31年8月
「決議 一、福岡の条件を三芳村が飲んだ場合は考慮する
一、福岡の条件を三芳村飲まない場合はそれに同調する」
- 9月 水谷村の代表が合併について打診
「決 五ヶ村対等合併の実現を期したい」
- 9月 上記同日
「鶴瀬議長 五ヶ村合併は不可能であるため五ヶ村ブロック研究会は打ち切るべきである
全員これに賛成 本日を以って鶴瀬ブロック五ヶ村合併研究会は本日をもって打ち切る(原文ママ)」

⇒ 鶴瀬ブロックは再び中断、個別協議へ！

福岡村の条件

昭和31年8月27日

「福岡村外四ヶ村合併について」

**「五ヶ村合併と同時に新庁舎の建設位置は大井村に接続せる
国有管理の引揚寮敷地内とすること」**

理由 ①人口 7,960人、②人口密度、③都市的連帯戸数、④金融機関、⑤警察、出先機関、⑥埼玉県食糧事務所出先機関、⑦旧陸軍造兵廠遊休施設の活用、⑧国際電信電話株式会社、⑨医療機関、⑩文化施設、⑪交通機関、⑫給与生活者 3,700人、⑬衛生施設、⑭消防施設、⑮配電機関、⑯都市計画法の適用村、⑰電話 132本、⑱その他

農業就業者が3割、逆に給与所得者が5割強、商工業就業者が1割強と、他村と比べて「都会」的な村

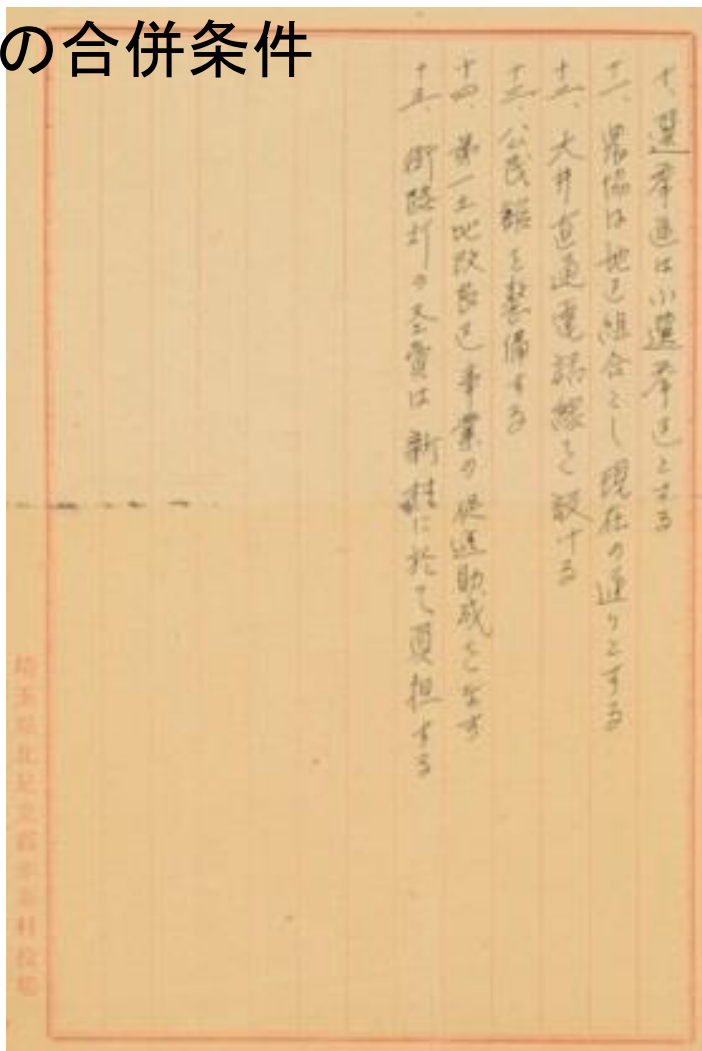
- 9月 「三芳村より村長以下9名来庁 三芳村としては(中略)結論として三芳、大井、鶴瀬三ヶ村合併実現することに決定……」 「南畑村と非公式に訪問することに決定……」
- 9月 「合併案(鶴瀬・南畑・水谷)に対し賛成する 反対なし 参考までに新村名について左記の名 二票以上
東上 城北 三ツ和 入間野 富士見 新生 三光
- 9月 「南畑村と共に強力に水谷村に合併促進することを決」
- 9月 三芳村代表来庁「三芳、大井、鶴瀬の三村合併の申込みあり 止得ない場合は三芳、鶴瀬、二村でも結構である」
- 9月 「三芳村と鶴瀬村二村で合併することを承認」
- 9月 20日付 三芳村と鶴瀬村の合併誓約書
- 9月 21日、三芳村との「誓約書の件は打切る」

⇒ 個別協議に入り、三芳村との協議も不調

- 9月 「三芳、南畑、鶴瀬の3村は条件を受け入れなかった」
「本村(大井)は受入れ」
- 9月 鶴瀬、南畑がくい違い「五ヶ村案一本で進む」
- 9月 鶴瀬村は「本心が不明」、大井村は「五ヶ村案」、南畑村は「五ヶ村案は頭がない」、三芳村は「他村と同歩調」、福岡村は「一步の譲歩の道がない」
「ついに、けつれつ」
「大井村として、福岡村、三芳村に対して進む」
- 9月 三芳村代表来庁「大井、鶴瀬、三芳と決定した」
- 9月 「福岡村、三芳村との三村合併」、「水谷村はけつ烈」
- 9月 21～22日 三芳村の状況は、大井村との二ヶ村で良い。
福岡村は考慮する。鶴瀬村は捨てたとのこと
「北部が南部の気持ちになってほしい」
- 9月 23日 「残念ながら、本当に我々として何とも申訳ない」

⇒ 大井村、三芳村、福岡村は合併せず

水谷村の合併条件



- ①中學校の存続、②みづほ台駅設置、③みづほ台駅周辺の土地改良、④県道大井志木線の改修と関沢坂の改修、⑤8号道路のの幅員拡大、木染橋の架替、⑦富士見橋の架替と県道編入、⑧役場支所の設置、⑨消防車(4輪)の購入、⑩選挙区は小選挙区、⑪農協は現在の通り、⑫大井直通電話線、⑬公民館の整備、⑭第1土地改良区事業の促進、⑮街路灯の経費負担

(一九五五年八月二十日)

德生伸銅所

三百十六票の差で南進派敗れる

を襲撃、南畑の北畑に村長取
役までを出動し北畑に攻め
寄せた。ところが北畑の要路
をふさいでいる薩きの本郷
と畠らの地城、道程十数町
の三輪に合戦する北畑は、
「村長と合戦する北畑は」
「村長と合戦する北畑は」
は北の村の村長をスビ、カ
で買収して、一昨年午後十
分、ある「臨時」を甲上
上げ、本員、南畑が本村に
合併申立てされた」と自叙

南津波に半分
分れた。それ
から猛烈な争
争を繰返して
いる水谷村の
合戦敵を一つ
とも潰滅させ
た。水谷村は
夜水谷村の地
に至り、その
際、つとに
に聞くと、こ
下はアレ
ボートであ
る。(増)

午後八時水
谷村、水谷村
の合戦敵を一つ
とも潰滅させ
た。水谷村は
夜水谷村の地
に至り、その
際、つとに
に聞くと、こ
下はアレ
ボートであ
る。(増)

さてこの事実を知った南津波では、
「北津波のやうな放浪したと早
通の北津波粉砕にかゝる結果」

一つの巨大な光を放ちながら、村の道ははしらはへま返りに走り回り、要所路頭に停車し、はまイタで放逐された。この間、自衛隊は各部隊間で各戸を巡回別行動して、また二万に際し河内飛行する。また、大に飛行運動の進行のビケ隊は、六人つ二箇までは飛行運動を監視する。また村内は金利が立止、一週間の気がみなまよつと、戦争の起つたとき、お嬢を引いていた午後十時に至り、所々この激しい最後夜の斗いの幕をとおしたてて、かくまひのか

その際、北野を封じていくべき

[illegible]

この南進北進の斗いはすでに終り水谷村は静かに返け手草にすだく虫の音も漸く昂奮で眠れぬ村人達を静かな睡眠にさそつていく……明日の住民投票にこの村の運命をかけて……

(九月十八日夜半配)

寫眞は谷合

大和町が右か左か又は合併の意志ありやなきやを云々
と注目されている

町村合併に關する水谷村の
動意は志木町と合併が將又
入間に来るかとの線で迷つて
いるかに見えていたが最近
の村の与んの大勢は志木
町と合併が七分間郡鵜瀬
村への合併が三分といふ
ところになり金子水谷村長も
は町村合併水谷村の動きに
自分の意志だけでは押切られ
ぬ状況となりほとんど村内
あげて新屋への合併の声が
高まつて来た右につき水谷
村議会議長増田英藏氏及び
同村産業協同組合長田中菊
雄氏同村々議組長寿平氏等

「つぎ次の如く語つていた。
「一大体水谷がよいは志木町
をなふくむ合併がよいとする
望氣が七分、入間が三分と
いうところであり決して志
木町と永久に別れていくと
いうような考えはない志木
と水谷及び近接町村が円ま
るんに合併出来るよう願ひ
ている」

志木外二力村
は大同へ



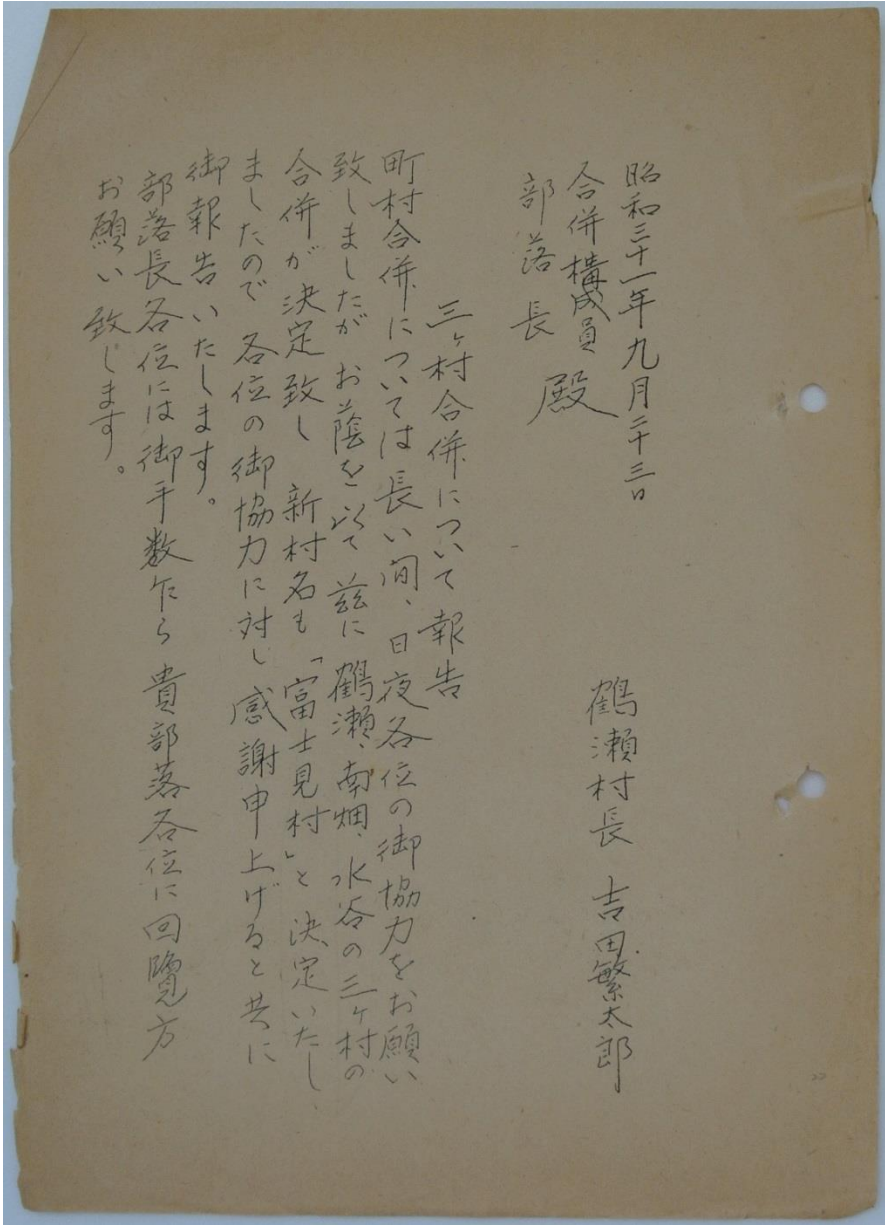
• 9月 23日

「三ヶ村合併について報告」

「鶴瀬、南畑、水谷の三ヶ村の合併
が決定し新村名も「富士見村」と決定」

昭和31年9月30日

「町村合併促進法」期限切れの日
に「富士見村」が誕生



⇒ 合併協議再開後、約1ヵ月で、5ヶ村合併に始まり、鶴瀬村と三芳村の合併誓約書、そして鶴瀬・南畑・水谷の3村合併となった。

「富士見」決定まで

○村名の決定経過は？

鶴瀬村役場「町村合併研究会幹事会日誌」には記載なし

○9月の議事録

「参考までに新村名について左記の名 二票以上

東上、城北 三ツ和 入間野 富士見 新生 三光」

○『埼玉縣市町村合併史』(S37.2)

「新村名は、当地方は土地高燥にして西方遙か富士山を望む健康的な田園であることから、関係三村合併幹事会(各村八名ずつをもって構成)において投票の結果、**富士見村**に命名された。」 ⇒ 9月22日の間に決定したのでは…

人間郡富士見村誕生

水谷・南畑・鶴瀬三力村が合併

首長議員教委選は十一月か

職務執行者には吉田繁太郎氏

田島ヶ原

楽しい旅行も
盲信の犠牲

[illegible]

最近、「頭切れゴンきん」はじめ
旧新撰地方は映画界のローケーシ
ョンで昔の訪問客がうつついてい
る。今月中旬から表参道前田開港水
田島地内昭和開港のまに大噴風
のセツとが組まれ、やれ「夕日」と
樂談」だの「○○」だのとまゝま
た訪問のタネをうつつているが、こ
れは東映石原研吉がメガフオン
をうつつ回りと、三宅明雄主演
の「エリザベス」の口で、

[illegible][illegible][illegible]

「眞は谷合」

田繁太郎氏

その前は「天目山戦役」を研究し、その功績を著書「出づる處」に出している。その功績を著書「出づる處」に出している。その功績を著書「出づる處」に出している。

田島ケ原

「眞は谷合」

田繁太郎氏

その前は「天目山戦役」を研究し、その功績を著書「出づる處」に出している。その功績を著書「出づる處」に出している。その功績を著書「出づる處」に出している。

- ・3村が合同して住民の福祉をはかる
- ・支所は水谷、南畑村役場におき支所長に委任する事項を決め～
- ・消防団は富士見消防団として統一する
- ・県道大井志木線の改修、南畑所沢線の改修、木曽目から大応寺に至る坂の改修
- ・橋梁、富士見橋の架替え、木曽目橋の改修
- ・土地改良みづほ台駅予定地前の土地改良、水谷一区の田の改良
- ・大井電話として富士見村の統一をはかる
- ・朝霞警察署管内から川越署管内に管かつを移管するよう申請

「新村建設に当っては22日合併合同委員会で次のように合併の大綱を定め23日には3ヶ村でそれぞれ村議会を招集して議案可決」

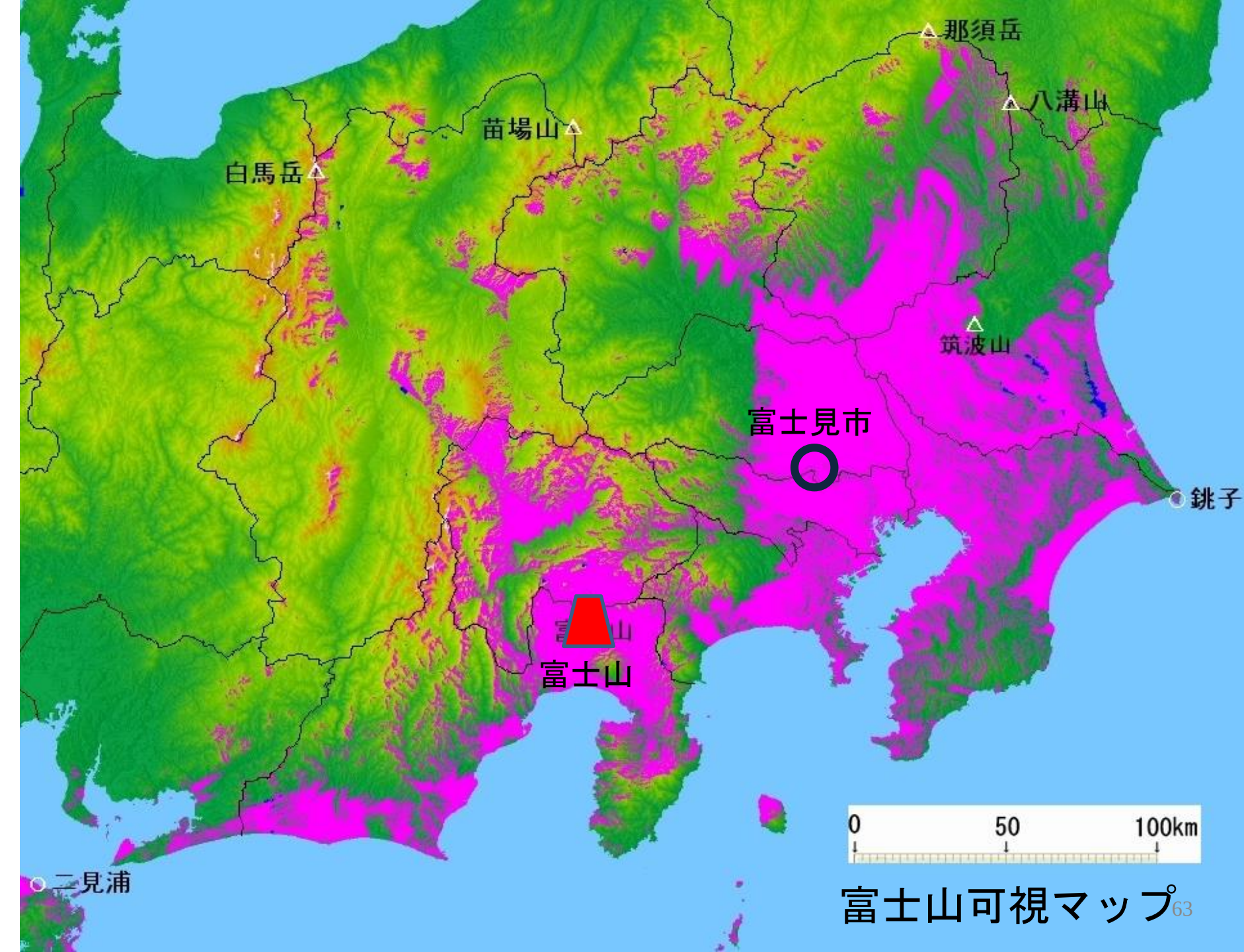


富士見誕生

60年

村内のどこからでも富士山を望むことができる

昭和31年9月30日 富士見村 誕生



富士山可視マップ⁶³

おわりに

ご清聴ありがとうございました。

来週(6月18日)は、
「海辺に暮らした縄文人と農耕文化の幕開け」 です。